



地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

9条地球憲章の会 第24回 公開研究会

宮本 ゆきさんの講演

核保有国・米国から見た核兵器、戦争、暴力の連鎖



宮本 ゆき

米国デュポール大学教授

CORE (Consequences of Radiation Exposure) 理事会員

長崎平和特派員・広島平和大使

[単著]

* Beyond the Mushroom Cloud: Commemoration, Religion, and Responsibility after Hiroshima (Fordham University Press, 2011)

* なぜ原爆が悪ではないのか (岩波書店, 2020)

* A World Otherwise: Environmental Praxis in Minamata (Lexington Books, 2021)

[主な論文 / 論考]

* "Gendered Bodies in Tokusatsu: Monsters and Aliens as the Atomic Bomb Victims" (2016)

* "In the Light of Hiroshima: Banalizing Violence and Normalizing Experiences of the Atomic Bombing" (2017) など

* 米国開発史の暗部に隠された被ばく被害—ハンフォードと福島—の過去・現在・未来 (2021)

2022年

1月30日 (日) 午前10時~12時 (日本時間)

オンライン ZOOM による開催 参加無料
事前申し込み

2020年8月23日、米国中西部のウィスコンシン州キノーシャで、子どもたちと一緒にアパートから出てきた黒人男性、ジェイコブ・ブレイク氏が白人の警官に背中を7発撃たれ重症を追った。にも拘わらず、警官が起訴されなかったことを受け、キノーシャでは「ブラック・ライブス・マター」のデモが行われていた。2日後、このデモに対して「店が攻撃されては困る」などの理由で店主や他州からの自衛団もキノーシャ入り。隣接するイリノイ州から17歳のカイル・リッテンハウスも自衛団として友人の銃を持って参加。結果、彼はデモに参加していた2人の男性を「自己防衛」として射殺。一人に怪我を追わせた。

しかし2021年11月の裁判で、カイルは未成年にも拘わらず銃を所持していたことさえ問われず、完全無罪となった。これはアメリカの人種問題の根深さ、「正当防衛」の法解釈、警察の対応、正義のあり方などを如実に見せつけ、こうした考えがアメリカの核兵器保持や戦争を支えていることを凶らずも露呈した事件であった。

こうした事例を踏まえ、アメリカの核政策及び、自治体・NGOによる現在の反核の動きについて紹介する。

お申し込み方法 (お申し込み期限: 2022年1月28日 (金) 23時59分)

下記の申込フォームに必要事項を入力してください。

<https://forms.gle/pTjVeBYW6o3Agx7k7>

お申込みが完了すると、確認メールが届きます。

申込フォームへの入力ができない場合に限り、メールでのお申込みを承ります。メールの件名を「1月30日参加」とし、本文に氏名・フリガナ・メールアドレス (以上必須)・ご所属 (任意) を明記して、9条地球憲章の会事務局 (9.globalpeace@gmail.com) 宛に、メールをお送りください。

お申込時に入力して頂いたアドレス宛に、1月29日 (土) 正午までに、Zoom 接続に関するご案内と研究会の配布資料をお送りします。



連絡先 9条地球憲章の会事務局 9.globalpeace@gmail.com

HP <https://www.9peacecharter.org/>

FB <https://www.facebook.com/9peacecharter/>